

第34期第16回研究会「橋下政治とメディア」（ジャーナリズム研究・教育部会企画）  
終わる

日 時：2015年6月6日（土）14:00～17:00  
場 所：上智大学大阪サテライトキャンパス  
問題提起者：渡邊久哲（上智大学）  
                  奥田信幸（毎日放送報道局社会部）  
                  南 彰（朝日新聞大阪本社社会部）  
司 会 者：音 好宏（上智大学）  
参 加 者：35名  
記録執筆者：音 好宏

今回の研究会は、橋下徹大阪市長というメディア・パフォーマンスの上手いユニークな政治家にフォーカスし、そのメディア露出と有権者の意識の関係、その政治手法とメディア取材との関係を、世論研究を専門とする渡邊久哲会員、橋下氏の取材を続けてきた毎日放送・奥田信幸記者、朝日新聞・南彰記者の3者に、それぞれの視点から橋下氏の政治を論じてもらうことで、今日における政治とメディアの関係を考えようとするものである。周知の通り、橋下氏は、それまでの弁護士、テレビタレントの活動による圧倒的な知名度を武器に、2008年の大阪府知事選で勝利し府知事に就任。逼迫した大阪府の財政再建を訴え、広域行政による「一つの大阪」を目指す大阪都構想を発表する。橋下知事は、この大阪都構想の実現を目指し、大阪府知事の任期を3ヵ月あまり残したまま2011年11月の大阪市長選に出馬、当選し、大阪市長に就任する。そのことからすれば、大阪都構想は、橋下氏の政治家としての一つのメルクマールであったことは間違いない。その大阪都構想を問う住民投票が行われたのは、さる5月17日である。この住民投票では、反対票が賛成票を上回る結果となった。この結果を受け、橋下徹大阪市長は、今年末の市長職の任期切れをもって引退することを表明した。

このようなホットな動きも射程に入れながら、研究会では、まず、渡邊会員から、いくつかの政治意識調査と、テレビを中心とした政治家のメディア露出データとの関連性を紹介しながら、橋下氏に象徴される近年の政治家のメディア露出、メディア戦略の傾向について報告してもらった。その上で、在阪の報道機関として、橋下氏という政治家を長期間にわたって取材をされてきた毎日放送報道局の奥田氏から、メディア・パフォーマンスにたけた橋下氏の政治家としての特色を、取材現場の実情にも触れながら報告してもらった。その上で、国政取材の経験も豊富な朝日新聞の南氏から、橋下氏のメディア対応の特質を事例を挙げながら、論じてもらった。

その上で、参加者の質疑も交えて、その政治手法とメディアとの関係について、議論が交わされた。派閥政治家に密着することで政治動向を探る旧来の政治取材の手法が「オフ」の政治取材とすれば、橋下氏のメディア対応は「オン」であり、取材対象としての「オン」の政治家の特質など、政治の可視化と今日の政治取材のあり方を考えるのに有用な議論となった。また、「維新の会」の代表などを務め、国政に対する発言でもしばしば注目を集める橋下氏の全国メディアと地元メディアとの向き合い方の違い、温度差も含めて議論がなされた。

フロアには、在阪のメディア研究者、報道関係者のみならず、在京メディア関係者なども参加。いまの政治状況に対する有権者の政治意識や、報道現場の雰囲気や実情などを踏まえた活発な議論が続く研究会であった。

なお、本研究会、上智大学メディア・ジャーナリズム研究所との共催の研究会として開催した。